

学校教育目標	このまちに生き、共に輝く子 ○課題解決に向け、粘り強く取り組む子を育てます(知) ○自分も相手も大切に思いやりのある子を育てます(徳) ○心身共に健康で、あらゆる命を大切に育てます(体) ○人のために役立つ行動をし、地域に愛着をもつ子を育てます(公) ○コミュニケーションの力を伸ばし社会への視野を広げ実践できる子を育てます(開)				
	創立 16 周年	学校長 森脇 信行	副校長 田中 力	2 学期制	一般学級: 6 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 116 人 主な関係校: 上白根北中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上白根北中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○ 自ら課題解決に向けて粘り強く取り組む力 ○ 自他の違いを認め、思いやる態度 ○ 自身の役割を果たし、貢献しようとする力	上白根北中学校 四季の森小学校 上白根小学校 白根小学校	○自分の思いや考えを表現する子ども ○互いを認めあえる子ども ○課題解決や目標実現のために粘り強く努力する子ども ・児童生徒が「お互いの違いを認め合える」よう、教職員が人権感覚をみがいたり、特別支援教育への理解を深める。 ・児童生徒が「自らの力で課題解決できる」よう、授業の工夫や改善をする。

中期取組目標	特別支援教育の視点を大切に、すべての子どもが安心して学べる学校をつくります。 ・すべての子どもが安心して表現できる学級風土を育てます。 ・一人ひとりの特性に応じた支援をし、児童が互いに話を聞き合ったり、自分の思いを伝えたりする力を培い、安心して学べる授業づくりを目指します。 ・より多くの職員で子どもに関わり、それぞれの子ども様子を共有します。 ・幼稚園や保育園、中学校との連携を深め、一人ひとりに応じた育ちと学びを支援します。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	・単元や本時で目指す子どもの姿を明確にした上で日々の授業づくりを行う。 ・振り返りの時間を重視し、自らの学びを通して「できた」を実感できるように、手立てや支援を工夫する。 ・重点研究テーマを「自分の思いや考えを表現できる子の育成」とし、算数の学習を中心に、数学的な表現を用いて、自分の思いや考えを整理し、表現できる子を育成する。
担当	研究・研修部	
徳	なかよし班活動	・異学年交流を通して思いやりのある子を育成するために、高学年が中心となって「なかよし班遊び」を実施する。また集会委員会が中心となって全校集会を実施する。 ・人間関係の基本を身に付けさせるために、学校全体であいさつ運動を行う。
担当	特別活動部	
体	健康教育	・外遊びをする児童を増やすために、なかよし班活動や委員会での活動で、みんなが体を動かすことの楽しさが実感できるような取組を、計画して実施する。 ・基本的な生活習慣の確立や健康的な体や心づくりの推進を図るために、学校保健委員会やすこやか委員の活動を通して自分自身の生活習慣について振り返る機会をもつ。 ・食事が心と体の健康に密接に関係していることを理解するために、すこやか委員会が中心となって栄養職員や養護教諭と連携し、食に関する取組を実施する。
担当	行事・学習部	
公 開	地域連携 学校運営協議会	・年間指導計画の中に地域の方と関わる活動を計画的に位置づける。また、取り組んだ活動については、記録を残し職員で共有し、次年度の学習活動に生かせるようにする。 ・授業や代表委員会、校内重点研、スマイルランド、学校運営協議会を開催し、児童の活動を見ていただいた上で、学校運営についての意見をうかがう機会を設ける。
担当	評価・地域連携部	
いじめへの対応		・いじめ防止研修を実施して、職員が共通認識を持つとともに、タブレットを用いた毎日の健康観察や年3回のYPアンケート、2回のいじめアンケート等により、些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。 ・月に1回以上の定期的ないじめ防止対策委員会に加え、必要に応じて臨時の委員会も実施し、積極的な認知および認知後の経過観察を丁寧に行うことで、再発防止に努める。 ・子ども会議や人権週間の取り組みの中で、子どもたちが話し合う機会を設定し、子ども自身が考える未然防止への取り組みを支援する。
担当	生活部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		・「教職の素養」「マネジメント」「専門性」の資質能力の向上を図るために、メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって隔月の活動を継続して行う。 ・組織的な働き方改革につなげるために、ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図る。
担当	教務部	
個に応じた指導		・学年ブロックで児童の実態把握を行い、必要な支援について検討・実践・評価を行う。必要に応じて特別支援委員会を実施し、職員会議や毎週の打ち合わせで児童理解の時間を設けることで全職員の共通理解のもと組織的に対応する。 ・特別支援委員会がICTの効果的な活用について検討し、共有する。 ・特別支援委員会では、個に応じた支援を行うために、支援の方向性を全教職員で共有し、安心して学校生活が送れるようにする。
担当	特別支援委員会	
安全管理		・前年度の反省をふまえ、より実態に即した訓練が実施できるように、年間の避難訓練計画を見直し実践する。 ・自分の命は自分で守るという気持ちをもてるようにするために、避難訓練や防災教育実施後、定期的に児童による訓練の振り返りをICTを用いて行う。 ・安心、安全な学校生活が送れるように、職員による毎月の安全点検等を活用して、校内の環境を見直し改善を行う。
担当	防災・安全部	
担当		
担当		